

9カ月男児

ポリオ発症

H.22. 2. 19

神戸、ワクチン未接種

神戸市は18日、市内に住む9カ月の男児がポリオ(小児まひ)を発症したと発表した。厚生労働省によると、ポリオの発症が確認されたのは2008年12月に三重県で確認されて以来。市は昨年11月にワクチンの集団予防接種を実施したが、男児は体調不良のため受けてい

なかった。男児は左足にまひが残っている。周囲への二次感染の恐れはないという。

男児から検出されたウイルスを国立感染症研究所で調べたところ、野生株ではなく、ワクチン株と判明。感染経路は不明だが、ほかの乳児に実施した予防接種のワクチンの弱毒ウイルスが、何らかのルートで男児に感染した可能性がある。

男児は昨年12月28日に38・5度の発熱をして、今年1月1日に受診。その後、まひ症状が現れ同7日に入院し

た。今月5日に便からポリオウイルスが検出された。

予防接種を受けると便からウイルスが排出されるため、家族などがワクチン由来のウイルスに感染する場合もある。ただ、まひなどの症状が出る例は約580万回に1回との研究報告がある。

市は「ワクチン未接種の男児がワクチン型に感染したまれなケース。集団で免疫を付けることが大事なので、集団予防接種はしっかりと受けてほしい」としている。